

③ コミュニティービジネスとしての情報サービス——くづるねっとと金沢——

■井上隆吉

1 インターネットとバーチャルコミュニティ

① インターネットの普及

バブル崩壊以降の経済活動の低迷の中にあつて、携帯電話やインターネットといった新しいコミュニケーション産業のみが、一人、気を吐いている。景気刺激策の一環として、当初二〇一〇年に予定されていた全国を結ぶ光ファイバー網は、二〇〇五年までに完成されることになり、文部省も、全国の学校へのインターネットの普及にあの手この手で躍起になっている。一九九八年、日本のインターネット利用者は一千万人を超え、二〇〇〇年末には二千万人を超える勢いで急速に拡大している(注1)。

これまでは、どちらかというところパソコンマニアや理系サラリーマンが主体となつて拡大してきた日本のインターネットも、仮想ペクトが電子メールを運んでくれる「ポストペクト」や、コンピュータらしからぬ五色のデザイン「IMAC」の出現により、これまでインターネットとは縁の薄かった若い女性層にも急速に普及が広がりつつある。

② バーチャルコミュニティの発達

米国では、コンピューター通信ネットワークが、同じ趣味・関心を持つ人々の間を結びつけ、ネット上の「バーチャルコミュニティ」を形成する現象が早くから見られた。

一九八五年四月、北部カリフォルニアのハイテクマニアが始めたバーチャルコミュニティサービス「The Well」(注2)では、これまでに一万人以上が教育やカウンターカルチャー・趣味といった多彩な分野での交流を続けている。

また、米国東部ではじまった「TriPod」(注3)は、インターネット上でバーチャルコミュニティサービスを無料で提供し広告収入により事業をなしたとせるといふ新しいビジネスモデルにより、既に全世界で数百万人のメンバーを有している。

日本でも、商業オンラインサービスの二フティーサーブが会員向けに「フォーラム」と呼ぶ電子会議システムを二百五十万人の会員を対象にサービスを行っている。

③ CATVインターネット

CATVインターネットは、光ファイバー伝送路を持つケーブルテレビ局の空きチャンネルを双方方向の通信サービスに利用する方式であり、一九九六年以降、ほぼ日米同時期に

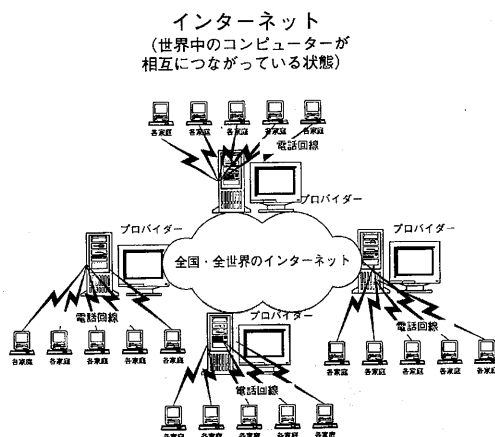
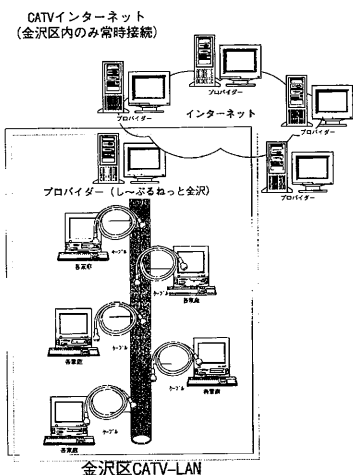
商用サービスが開始された。

通常、家庭からインターネットに接続するには、パソコンにつけた電話モデムと呼ばれる装置を電話線に接続し、NTT経由、プロバイダーと呼ばれるインターネット接続業者に回線をつなぐ。月額数千円のプロバイダーとの接続料金以外に、三分間十円、NTTへの電話代がかかるため、一日三十分利用しても月額五、六千円のコストとなる。このため、長時間つけっぱなしにするような使い方にはなじまない。また、音声に使う銅線をデータ通信にも利用するため、通信速度の上限の制約を受けるので、画像や多量のデータをやりとりするには向いていない。

これに対しCATVインターネットは、自前の、しかもテレビ用の光ファイバー回線を用いるため、①通信料+接続料で月額固定の低額の料金設定が可能、②動画を含む多量のデータをやりとりするのに十分な高速接続が可能となる、といったこれまでの通信方式にない大きな利点を持っている。

北米では既に五十万世帯以上がCATVインターネットを利用しているが、日本では一万世帯以下の普及にとどまっている。一九九九年一月現在、全国で六十二のCATV局が第一種通信事業免許を取得しており、新たに

- 1 インターネットとバーチャルコミュニティ
- 2 しるねっとと金沢
- 3 能見台通り「電脳」商店街



サービスを開始するCATV局は増加の傾向にある。(注4)

2 しるぶるねっとと金沢

① タウンテレビ金沢としるぶるねっと

しるぶるねっとと金沢は、(株)タウンテレビ金沢(注5)の光ファイバーが敷設された金沢区内六万八千世帯(注6)をサービスエリアとし、タウンテレビ金沢が通信インフラの提供を行う第一種通信事業者、インターネットケイブケール通信(株)(注7)が付加価値通信サービスを行う第二種通信事業者として、両社が共同で提供しているCATVインターネットサービスである。

商用サービスの開始は一九九七年九月で、日本で三番目、神奈川県内では最初のサービスとなった。現在、個人の利用者は約二千名で、法人では横浜南共済病院や横浜中学などがサービスを利用している。

② パーチャルコミュニティサービス(注8)

しるぶるねっとと金沢では、地域限定というCATVインターネットの特徴を生かすため、地域のパーチャルコミュニティの育成に努めてきた。

③ ホームページ

ホームページは、ワープロができれば簡単に作成することが出来る私家版の公開壁新聞である。しるぶるねっとと金沢では、誰でも気軽にホームページを作成しあうことがユーザーコミュニティの発達につながると考え、初心者向けの半自動ホームページ作成プログラ

ムを無償で公開している(注9)。公開されたホームページは、現在百六十四件あり、作成済み未公開のものを含めると個人接続ユーザー約二千名のうち一割がホームページを所有していることになる。ホームページの内容は趣味から実益まで千差万別だが、地域ネットワークの特色として地元紹介のページが豊富である。

「インターネットという、グローバルなネットワークを使い、世界に目を向けながらも、地域(ローカル)に密着した情報を充実するグローバルをキーワードに」作成した、ユーザーの亀田さんのホームページ(注10)が、地域マルチメディアハイウエー協議会主催のCATVインターネットホームページコンテストで一九九八年度の郵政大臣賞を受賞した。前年の一九九七年度には、能見台駅前の蕎麦屋谷津坂屋さんが入賞しており、全国的に見ても極めてハイレベルにある。

④ 電子掲示板(フォーラム)

電子掲示板システムとは、インターネットに接続した人が、自由に閲覧・書き込みができるシステムで、ちょうど、落書き帳の回し読みをしている感覚で次々に話題が発展していく仕組みである。

しるぶるねっとと金沢では、現在ユーザーが自ら主催者となっている電子掲示板が七十近くあるが、これとは別に、インターネット初心者気軽に会話に参加できるよう、しるぶるねっとと金沢自身が主催者となる掲示板も設けている。

ユーザーの電子掲示板は、それぞれオーナーの人の柄が色濃く反映される。

六浦地区の家庭の主婦が主催する「浜っこ便り」では、金沢区の住民を中心としつつも、遠く四国や京都に同じ主婦仲間の常連さんがいて、秋の紅葉や、春の草木の話題などが、デジタル写真付きで紹介されている。年間四千件以上の書込みがあり、しるぶるねっとと金沢でももっとも活発な掲示板の一つである。

⑤ 簡易テレビ会議システム(Cu-SeeMe)

CATVインターネットは、テレビ局の局舎から上位のインターネットへの接続回線のぞけば、地域内のイントラネットとして機能している。地域内であれば光ファイバーの性能がフルに活用できるため、通常の電話線では実用的でないテレビ会議システムなどの利用が可能となる。

しるぶるねっとと金沢では、Cu-SeeMe(注11)というインターネット上でのテレビ会議システムを無料で提供しており、ユーザーが毎週土曜日夜パソコンの前に集まり、お互いの顔を見ながらお酒を飲みおしゃべりする「パーチャル居酒屋」タイムが自然発生している。メンバーは現実の地域コミュニティの一員であるため、パーチャルで始まったものが、現実に誰かの家に集まり酒盛りに発展するという局面も何度もあったやに聞いている。

また、テレビ会議システムではないが、同様の画像送出システムを利用し、金沢区内八か所で二十四時間同時中継が行われている。

⑥ その他の道具

ICQ(I seek you)は米国Mirabilis社のインターネット版無料ボケベルソフトで、現在全世界で一千三百万人(注12)の利用者がいる。

(注1) インターネットマガジン三月号百九
十頁、一九九九年インプレス社

(注2) <http://www.well.com/>

(注3) <http://www.tripod.com/>

(注4) 平成九年度末のケーブルテレビの現状。郵政省。
<http://www.mpt.go.jp/pressrelease/japanese/new/980922j701.html>

(注5) (株)タウンテレビ金沢
<http://www.towntv.co.jp/>

(注6) 金沢区並木地区は無電柱での町並が形成されているため、サービスエリア外となっている。東京電力柱・NTT柱への共架によりケーブルを敷設しているケーブルテレビ局がサービスを提供するためには、新たに道路を掘り起こし、ケーブルを地下埋設しなければならず、事業採算に乗りにくい。

(注7) インターラクティブケーブル通信(株)
<http://www.2.marinet.or.jp/tac>

(注8) <http://www.seapple.icc.ne.jp/>

(注9) <http://www.seapple.icc.ne.jp/homepage/text/template/index.html>

(注10) <http://www.seapple.icc.ne.jp/~kameda>

(注11) パソコンにCuSeeMeソフトを入れ、簡易テレビカメラをつなぐことにより、十人程度の同時テレビ会議が出来るシステム。

一九九七年九月一日しるぶるねっとと金沢のサービス開始を祝うパーチャルパーティーの報告 <http://www.seapple.icc.ne.jp/~kameda/h-ttk902.htm>、タウンビュー金沢と銘打ったホームページ <http://www.seapple.icc.ne.jp/~kameda/idx.cam.htm>

(注12) <http://www.zdnet.com/yil/content/mag/9809/icc.html>

コンピュータにソフトを入れておけば、ネットワークに接続したとたん、予め登録していた友人に連絡が行くという仕組みである。

④ユーザーミーティング

オンラインサービスの電子会議室の仲間が、ネットワークを離れ実際に会って飲み会をやることを「オフミーティング (off the line meeting)」とよんでいる。

しるぶるねつと金沢では、バーチャルコミュニティ育成のため、開業当初よりユーザー同士が実際に顔を合わせる機会を提供している。現在は、年に二回程度、金沢文庫駅前のレストランに集まり、新規メンバーの紹介とその時々話題を提供している。

恒例となった全員参加のじゃんけん大会では、勝ち抜き者にデジタルカメラを進呈し、これをホームページに活用していただくことで、バーチャルコミュニティの更なる活性化を期待している。

3 一能見台通り「電脳」商店街

①日本初のインターネット蕎麦屋谷津坂屋 (注13)

京浜急行能見台駅は、各駅停車のみ停車の駅だが、後背地に大規模開発のマンション群や戸建住宅を控え、また、昨年大手スーパーが開店したこともあり、急速に発展しつつある。

谷津坂屋は、能見台駅より歩いて三分。ビルの地階にあり、蕎麦屋としては立地上不利な状況にあった。ご主人の橋本さんが、「ブランド好きなグルメ相手の店ではなく、地元

に密着し、毎日食べに來られるような値段を維持しつつ、それでいて味や素材にこだわった店でありたいと思っています。」とのホームページ開設のご挨拶を述べたのが一九九六年の五月。取りたててパソコンマニアでもないご主人が、店の特色をアピールし、集客力向上のため、「谷津坂屋通信」なるちらし新聞を発行しはじめたのもこの頃であった。

一九九六年十一月に金沢区でのCATVインターネットのトライアルが始まると、初期のモニターとしてネットワークに接続され、爾来、顔が見え、声の聞こえる範囲での商いが、インターネットを通じ、一挙に全世界に広がることになり、店内カメラ(注14)やオフミーティング(注15)を通じ、地域のネットワーク仲間の拠点となっている。

②その他の「電脳」商店

能見台通り商店街には、谷津坂屋の活動に刺激され、CATVを経由して常時インターネットに接続している店舗が増えつつある。ホームページを開設している店だけでも、肉・魚料理のお店「吾作」(注16)や、コーヒーの店コロラド(注17)さらに、ちよつと足を伸ばしたあたりには、つりエサの立野(注18)や、手造り草加せんべい秋月堂(注19)があり、現実の店舗とバーチャルショップが奇妙に入り交じった街となっている。

能見台通り商店街の「リサイクルブティックジュンポ」(注20)は、もともと店扱いのみのリサイクルショップであったものが、しるぶるねつと金沢で知り合った有志の支援を得て、インターネット上でのリサイクルショッ

プを開業し、好調に売り上げを伸ばしている。最近では、お店主催のインターネット上のオークションが人気を呼んでいる。

③地域コミュニティと情報サービス

CATVインターネットは、郵政省の免許の関係から市町村(横浜市は区)内限定のサービスである。この制約が、逆に需要も供給も地域限定であるというコミュニティビジネスとして成長すると共に、同じ町内・両隣といった伝統的な地域コミュニティから抜け出し、かといって、全日本・全世界対象の匿名のバーチャル空間でもない、セミ・バーチャルのコミュニティ活動の場として最適な環境を提供している。

一九九八年十二月より、しるぶるねつと金沢と同様のサービスを行っている、千葉県習志野市で、「町ごとテレビでインターネット」のコンセプトで、四百二十世帯の町内会の役員・班長全員と希望者百世帯にこの端末を配り、閲覧板の電子化や、ご近所のお店情報、ペットを軸にした町内コミュニティの活性化が試みられている(注21)。

少子高齢化という、日本の社会構造をもちにかぶる大都市の住宅街・商店街が、CATVインターネットなど、地域に根差したコミュニケーションツールを最大限に活用し、従来考えられなかったパワーとスピードで活性化されるのは、現実の物語となりつつある。

〈インターネットブティック通信株式会社
常務取締役〉

(注13) <http://www.seagle.ic.ne.jp/>

Page

(注14) 店内カメラ…谷津坂屋は人手の関係で出前せず、店売りと宴会を柱として営業している。たまに、宴会で店売りを休業したとき、わざわざたずねてくれるお客さんのために、「今日は店をやってるか?」がすぐに分かるようにとの配慮から、店内にカメラを設置し備え付けのパソコンから全世界に映像を発信したのが、営業時間中店内を写しっぱなしにして全世界に映像を提供している「やってる?カメラ」の発端である。

このカメラは、解像度の面からはおおよそプロのレベルではないが、自宅からでも、会社からでも、「誰が店にいるか」程度は分かるため、自然と店に対する親近感が沸いてくる。いまでは、お店の中だけでなく、ビルの窓から写す京急能見台駅前の様子が同じく二十四時間放映されており、「お迎えカメラ」として重宝がられている。

(注15) オフミーティング…有志の方の呼びかけで、場所だけ提供するスタイルから飛び入りを含め大勢が一度に会する格好のものまで含め、年に数回オフミーティングを開催されている。新年会やお花見といった一般的な機会とは別に、新しいパソコンを組み立てる会や、新しい技術の勉強会などテーマはさまざまだが、多いときには四十名近くが朝方までわいわいがやがや楽しむのが通例となっている。

(注16) 吾作 <http://www.seagle.ic.ne.jp/>

539kenta

(注17) コロラド <http://www.seagle.ic.ne.jp/>

re.jp/colorado

(注18) つりエサの立野 <http://www.seagle.ic.ne.jp/>

ic.ne.jp/ttno/

(注19) 手作り草加せんべい秋月堂 <http://www.seagle.ic.ne.jp/~shugetsu/>

(注20) リサイクルブティックジュンポ <http://www.seagle.ic.ne.jp/~junpo/>

(注21) 東京新聞一九九九年一月四日付社説 <http://www.tokyo-np.co.jp/shasetsu/>

<http://www.tokyo-np.co.jp/shasetsu/>
/990104.htm